

大阪時代 ― 通信講習所と天王寺師範の頃



「高師を志して 野心もえさからせて之をとった。しかし高師は失敗した。あそびすぎたため。だがよかった。東京が見られたから。」
大正15年(1926)10月・19歳



天王寺師範二部に入學 健康回復 体重15貫(56kg)越える。
大正15年(1926)4月・18歳



「高等試験令七条を志して どうにかして明るく力強い生活へ這入りたいと現業にあること1年、高資7条試験を志した。羽織につけてある立派な紐が10銭か15銭かの代物だった時代である。但し、この写真をうつる前までコヨリを代用して居た。」 大正14年(1925)2月



「通信講習所に這入て間もなく。750人ばかりの受験者の中から、ポット出の私は意外に合格した。初めて洋服を着てうつったものである。」 大正12年(1923)6月・15歳



牛滝に遊ぶ 現役兵除隊後、大阪府泉南郡修齊小学校に帰任。五年生を受け持つ。学校では殆ど教室にいることなく山に行っては遊んだ。 昭和2年(1927)11月・20歳



1年現役兵として八連隊に入隊 「ある日曜の夕方、夾竹桃の桃色の花がほのかに匂ふもど(写真を)とった。当時は実によかった。何一つ思うことなく、恵れた健康と若さの中にハツラツとして居た。」ここで同窓の有松佐一郎(右)と親しくなり、彼によってファールを知り、柳田國男の名を知った。
昭和2年(1927)8月・20歳



樹蔭(昭和6年6月以降)
この頃は盛んに和歌を作った。



「7カ月の先生をやめて(修齊小)学校を去る前、子供等と」
昭和3年(1928)3月・20歳



「とろし」は、取石小学校の教員時代に子供たちが調べた村の生活誌をつづったもの 昭和12年(1937)3月・29歳